



『万葉歌碑』（対馬市）

百船の泊つる対馬のあさぢ山

しぐれの雨にもみたひにけり

碑文は、「万葉集」巻第一五・三六九七番の遣新羅使人によつて詠まれた歌である。

詞書に、遣新羅使の船団が順風を待つて浅茅の浦に五日間停泊した時に詠まれたものとある。対馬は遣新羅使にとつて、交通の要所であり、水や食糧の補給地でもあった。国境の島の浅茅湾から眺めた山々が黄葉していく晩秋の美しい景色を詠んでいる。

碑は、昭和四十七年に当時の国民宿舎前に建立された。美津島町内には、この他、グリーンパーク内や万関展望台など数カ所に万葉歌碑がある。

五島や壱岐にも万葉歌碑があり、本県と万葉集との関わりは深い。家族や故郷との別れは、時代を超えて胸に迫るものがある。